

2026 年 10 月 16 日
株式会社日本政策金融公庫

**回答先の約 8 割が令和 8 年 2 月以前と比べ「経営コストの増加幅が 1 割超」と回答
～ 資材等の調達不安や価格高騰には、まとめ買いや使用量低減などにより対応 ～**
＜農業景況調査（令和 8 年 7 月調査）特別調査＞

日本政策金融公庫農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和 8 年 7 月調査）」を実施し、「国際情勢等の変化による経営への影響」をテーマに、特別調査を行いました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。（※いずれも令和 8 年 7 月時点の回答結果）

＜資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅＞

- 令和 8 年 2 月以前と比べた経営コスト全体の増加幅は、「10%超～20%以下」と回答した割合が 47.3%と最も高くなりました。経営コスト全体の増加幅が 10%超と回答した割合は、全体の約 8 割となりました。
- 耕種では、肥料費や農薬・薬品費、燃料動力費で「10%超～20%以下」と回答した割合が 4 割超となり、畜産では、飼料費や農薬・薬品費、燃料動力費で「10%超～20%以下」と回答した割合が約 4 割となりました。

＜令和 8 年 7 月以降の生産資材等（出荷資材含む）の調達見込み＞

- 令和 8 年 7 月以降の生産資材等（出荷資材含む）の調達見込みは、「多少の不足が見込まれる」と回答した割合が 50.3%と最も高く、次いで「例年と変わらず確保できる見込み」（37.6%）となりました。

＜資材等の調達不安や価格高騰への対応状況＞

- 資材等の調達不安や価格高騰への対応状況について、「まとめ買いなど仕入方法の工夫」と回答した割合が 46.3%と最も高く、次いで「資材の使用量低減」（35.4%）、「代替資材への変更」（31.0%）となりました。

＜生産・出荷量への影響＞

- 生産・出荷量への影響について、「影響はない」と回答した割合が 64.7%と最も高く、次いで「今後（令和 8 年 7 月以降）減少する見込み」（18.7%）、「減少した（令和 8 年 3 月～6 月の間）」（8.1%）となりました。
- 生産・出荷量が「減少した・減少見込み」と回答した先の令和 8 年 2 月以前と比べた減少幅は、「10%超～20%以下」と回答した割合が 43.8%と最も高く、次いで「10%以下」（36.7%）となりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

農業景況調査（令和8年7月）

～特別調査：国際情勢等の変化による経営への影響について～

～目次～

- 1 資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅……P3～5
- 2 令和8年7月以降の生産資材等の調達見込み…………… P6
- 3 資材等の調達不安や価格高騰への対応状況……………P7
- 4 生産・出荷量への影響…………… P8
- 5 生産・出荷量の減少幅…………… P9
- 参考……………P10～14

○調査概要

- ・ 調査時期：令和8年7月
- ・ 調査方法：往復はがきによる郵送アンケート及びインターネット併用調査
- ・ 調査対象：スーパーL資金又は農業改良資金等のご融資先のうち19,606先
- ・ 有効回答数：5,268先（回収率26.9％）

（内訳）

稲作（北海道）：473、稲作（都府県）：1,313、畑作：424、露地野菜：510、
施設野菜：517、茶：89、果樹：281、施設花き：133、きのこ：50、
酪農（北海道）：209、酪農（都府県）：198、肉用牛：388、養豚：194、
採卵鶏：110、ブロイラー：78、その他：301

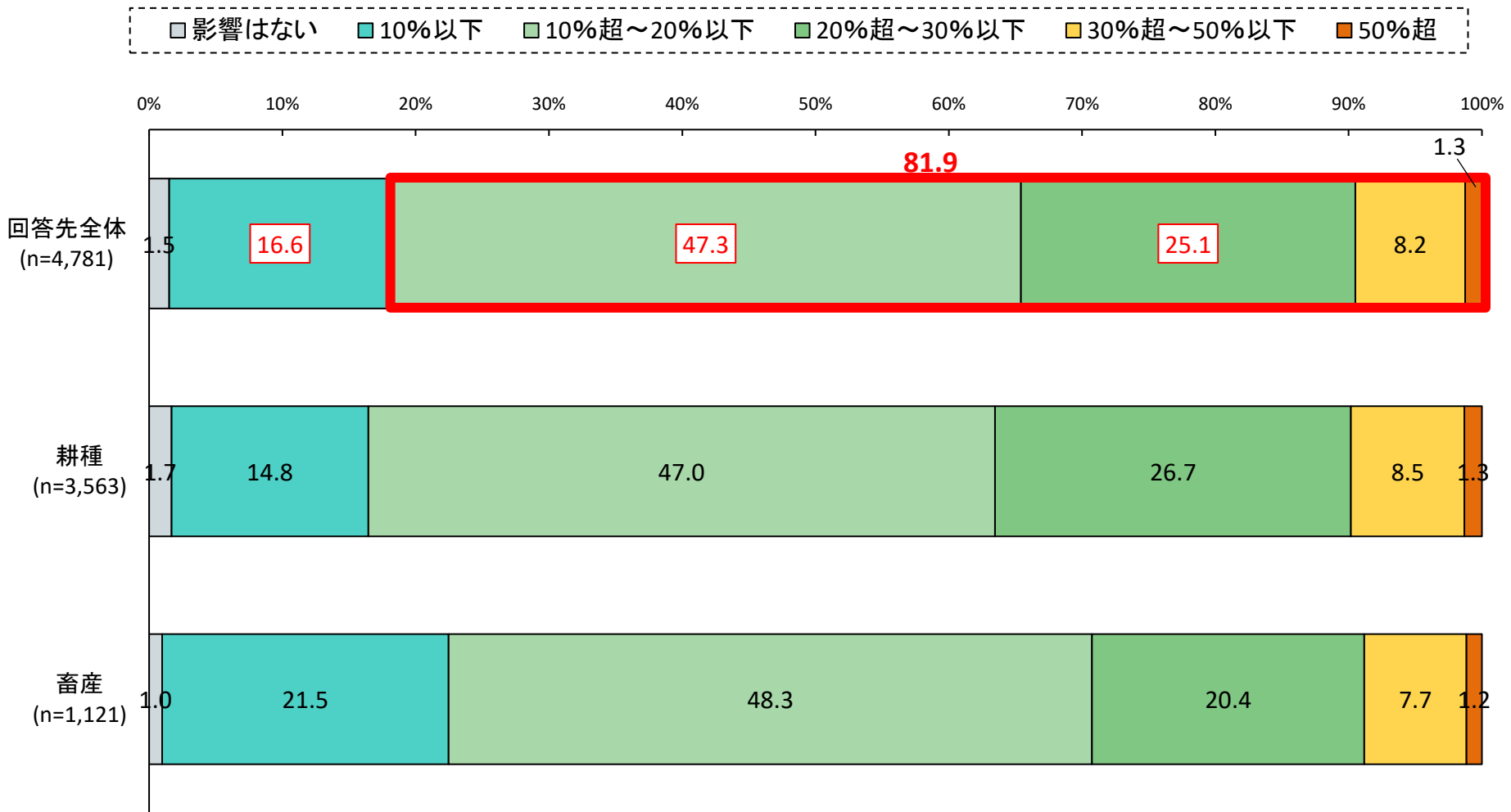
※グラフに表示している構成比は小数点第2位以下を四捨五入しているため、各種合計値が合わない、または100にならないことがある。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部（担当：大王、垣尾）TEL：03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

1. 資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅（経営コスト全体）

- ・令和8年2月以前と比べた経営コスト全体の増加幅は、回答先全体では、「10%超～20%以下」と回答した割合が47.3%と最も高く、次いで「20%超～30%以下」(25.1%)、「10%以下」(16.6%)となった。
- ・経営コスト全体の増加幅が10%超と回答した割合は、全体の約8割となった。

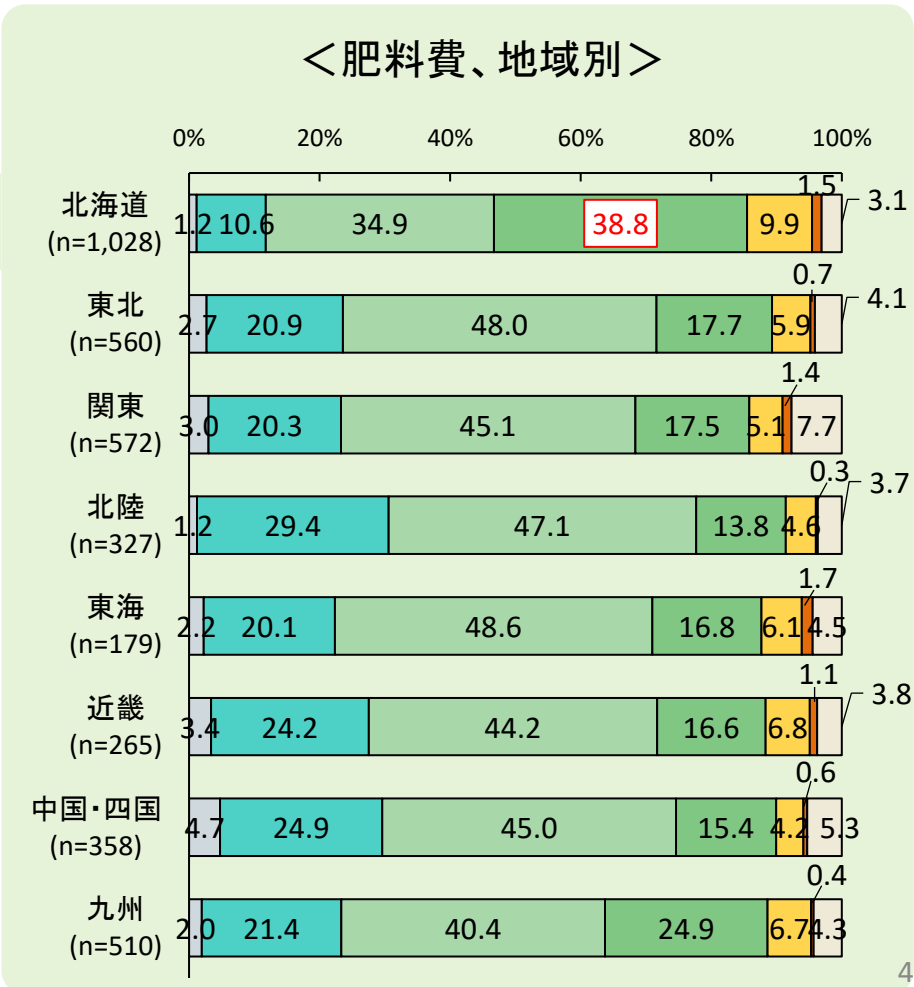
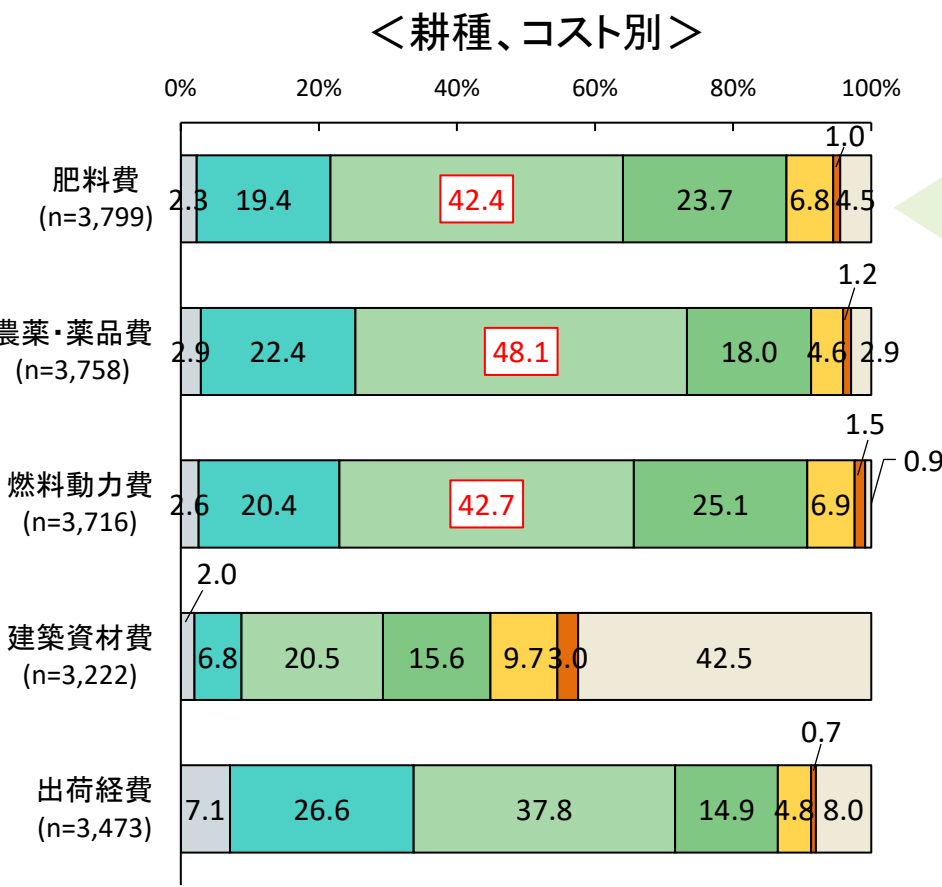


※中東情勢の悪化に伴う影響を把握するため、「令和8年2月以前と比べた、7月1日時点のコストの増加幅」を調査

1.資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅(耕種)

- ・令和8年2月以前と比べたコストの増加幅は、耕種では、肥料費や農薬・薬品費、燃料動力費で「10%超～20%以下」と回答した割合が4割超となった。
- ・肥料費の増加幅を地域別にみると、北海道では「20%超～30%以下」と回答した割合が38.8%と、他の地域と比べて高くなった。

□ 影響はない ■ 10%以下 ■ 10%超～20%以下 ■ 20%超～30%以下 ■ 30%超～50%以下 ■ 50%超 □ 仕入れていない

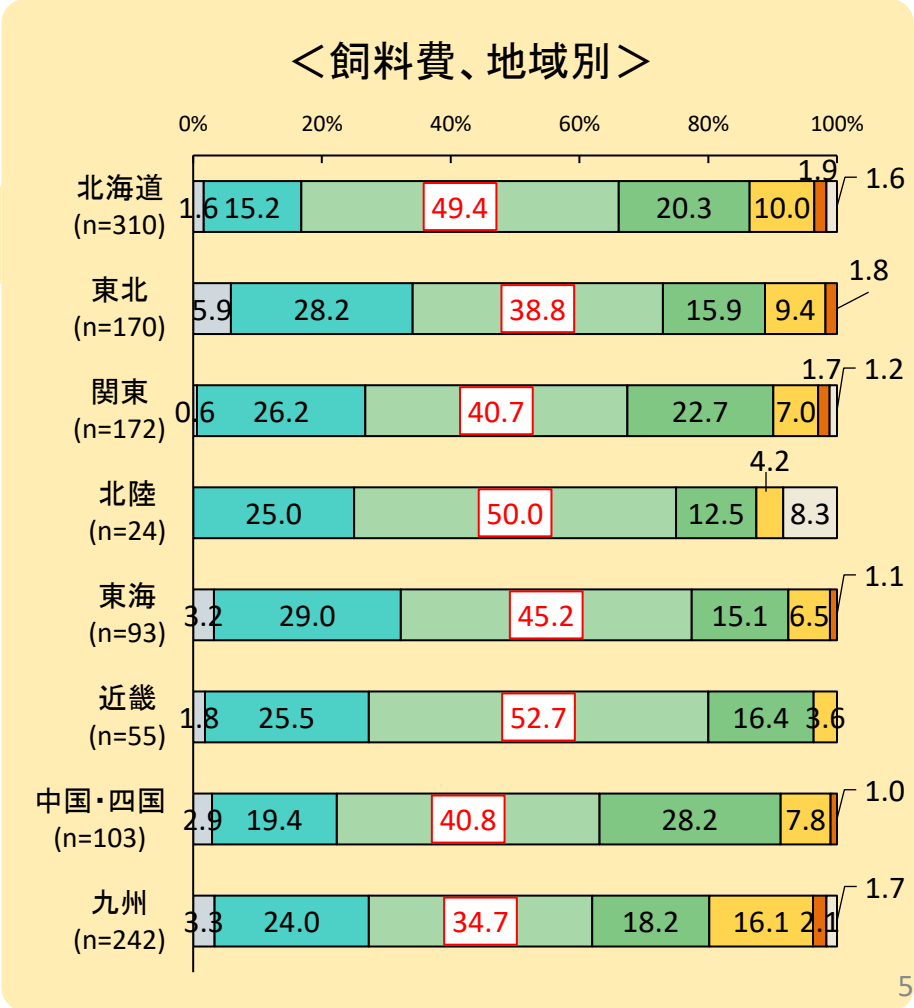
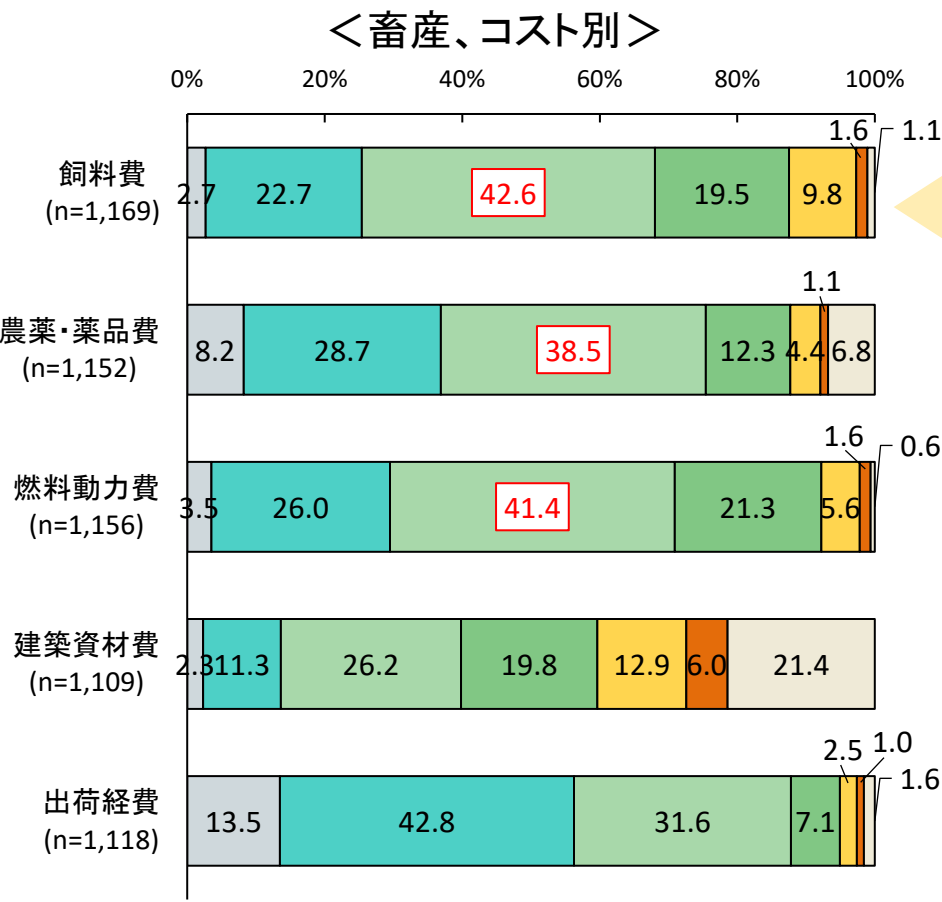


※中東情勢の悪化に伴う影響を把握するため、「令和8年2月以前と比べた、7月1日時点のコストの増加幅」を調査

1.資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅(畜産)

- ・令和8年2月以前と比べたコストの増加幅は、畜産では、飼料費や農薬・薬品費、燃料動力費で「10%超～20%以下」と回答した割合が約4割となった。
- ・飼料費の増加幅を地域別にみると、全ての地域で「10%超～20%以下」と回答した割合が最も高くなった。

□ 影響はない ■ 10%以下 ■ 10%超～20%以下 ■ 20%超～30%以下 ■ 30%超～50%以下 ■ 50%超 □ 仕入れていない

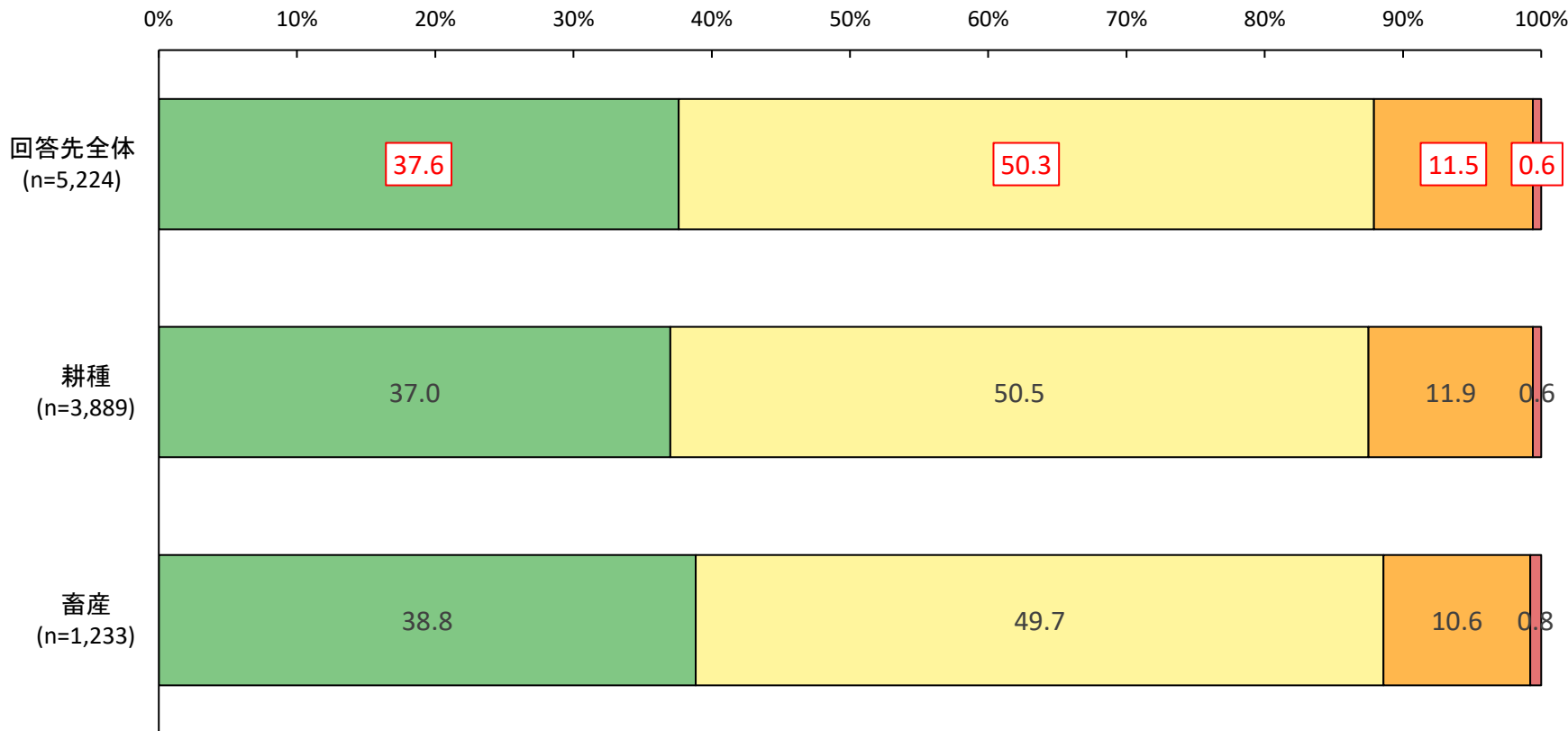


※中東情勢の悪化に伴う影響を把握するため、「令和8年2月以前と比べた、7月1日時点のコストの増加幅」を調査

2.令和8年7月以降の生産資材等(出荷資材含む)の調達見込み

・令和8年7月以降の生産資材等(出荷資材含む)の調達見込みは、回答先全体では、「多少の不足が見込まれる」と回答した割合が50.3%と最も高く、次いで「例年と変わらず確保できる見込み」(37.6%)、「大きな不足が見込まれる」(11.5%)、「ほとんど入手できない(供給が止まる)」(0.6%)となった。

■ 例年と変わらず確保できる見込み ■ 多少の不足が見込まれる ■ 大きな不足が見込まれる ■ ほとんど入手できない(供給が止まる)



3.資材等の調達不安や価格高騰への対応状況(回答先全体、業種別)

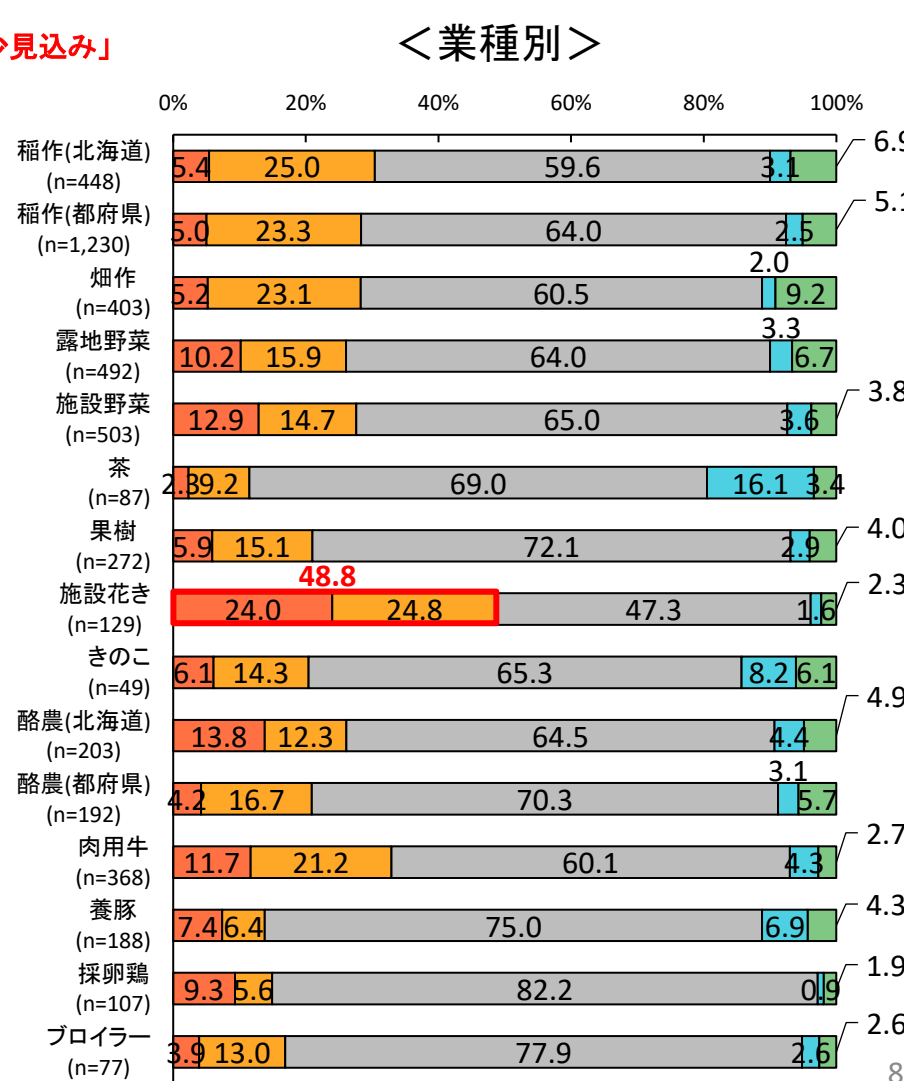
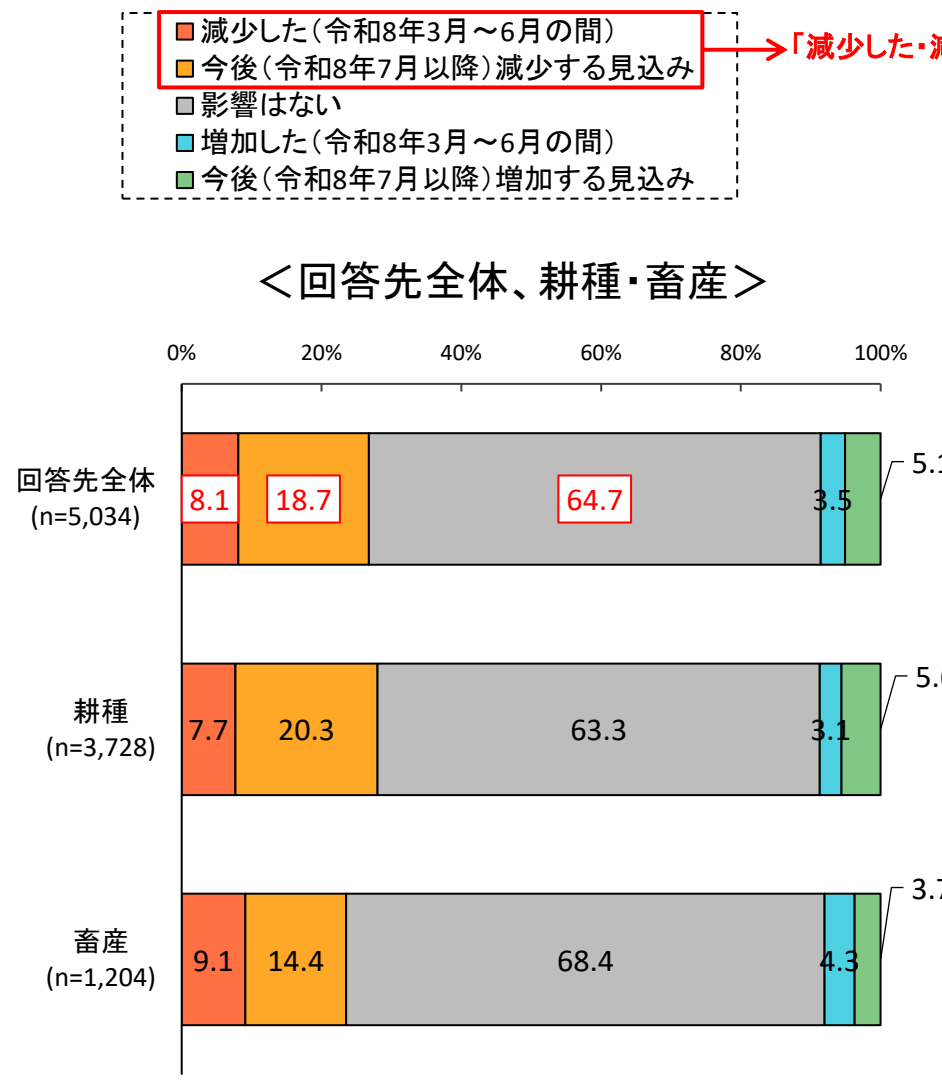
- 資材等の調達不安や価格高騰への対応状況について、回答先全体では、「まとめ買いなど仕入方法の工夫」と回答した割合が46.3%と最も高く、次いで「資材の使用量低減」(35.4%)、「代替資材への変更」(31.0%)となった。
- 業種別にみると、畑作、酪農(北海道)、ブロイラーでは「資材の使用量低減」、養豚では「仕入先等との価格交渉」、採卵鶏では「販売価格への転嫁」と回答した割合が最も高くなった。

	【複数選択、%】									
	まとめ買いなど 仕入方法の工夫	資材の使用量 低減	代替資材への 変更	仕入先等との 価格交渉	資材費以外の 削減	仕入先の変更	販売価格への 転嫁	特に対策をして いない	その他	
回答先全体 (n=5,161)	46.3	35.4	31.0	21.0	18.0	18.0	14.7	15.6	3.9	
稲作(北海道) (n=466)	48.7	42.7	37.1	9.2	22.3	13.3	5.2	18.9	3.6	
稲作(都府県) (n=1,287)	49.9	29.8	26.3	22.5	15.4	17.1	12.6	18.4	2.8	
畑作 (n=418)	47.4	59.1	43.5	18.7	25.6	21.1	7.4	9.8	2.4	
露地野菜 (n=499)	46.9	39.3	34.3	19.0	19.2	20.6	18.4	10.8	5.6	
施設野菜 (n=511)	48.7	34.1	33.9	21.7	21.1	22.3	17.4	11.9	4.5	
茶 (n=88)	52.3	20.5	33.0	33.0	9.1	18.2	26.1	13.6	2.3	
果樹 (n=280)	46.1	27.9	26.8	16.1	13.2	13.9	34.3	15.4	4.3	
施設花き (n=129)	46.5	44.2	31.8	16.3	20.2	15.5	22.5	7.8	12.4	
きのこ (n=49)	38.8	16.3	20.4	30.6	18.4	16.3	30.6	10.2	2.0	
酪農(北海道) (n=206)	48.1	51.9	35.4	19.9	22.8	21.4	2.9	10.2	4.9	
酪農(都府県) (n=193)	49.7	33.7	34.2	19.2	16.1	20.2	2.1	14.0	4.7	
肉用牛 (n=369)	39.3	31.7	22.0	23.6	17.6	16.3	6.5	23.6	4.3	
養豚 (n=189)	32.3	31.2	26.5	37.6	13.8	18.5	5.8	19.6	3.2	
採卵鶏 (n=109)	37.6	17.4	24.8	33.0	9.2	13.8	43.1	13.8	3.7	
ブロイラー (n=75)	33.3	33.3	25.3	25.3	16.0	13.3	8.0	32.0	2.7	

※回答先全体は上位3つ、各業種は最上位を赤字で表記。

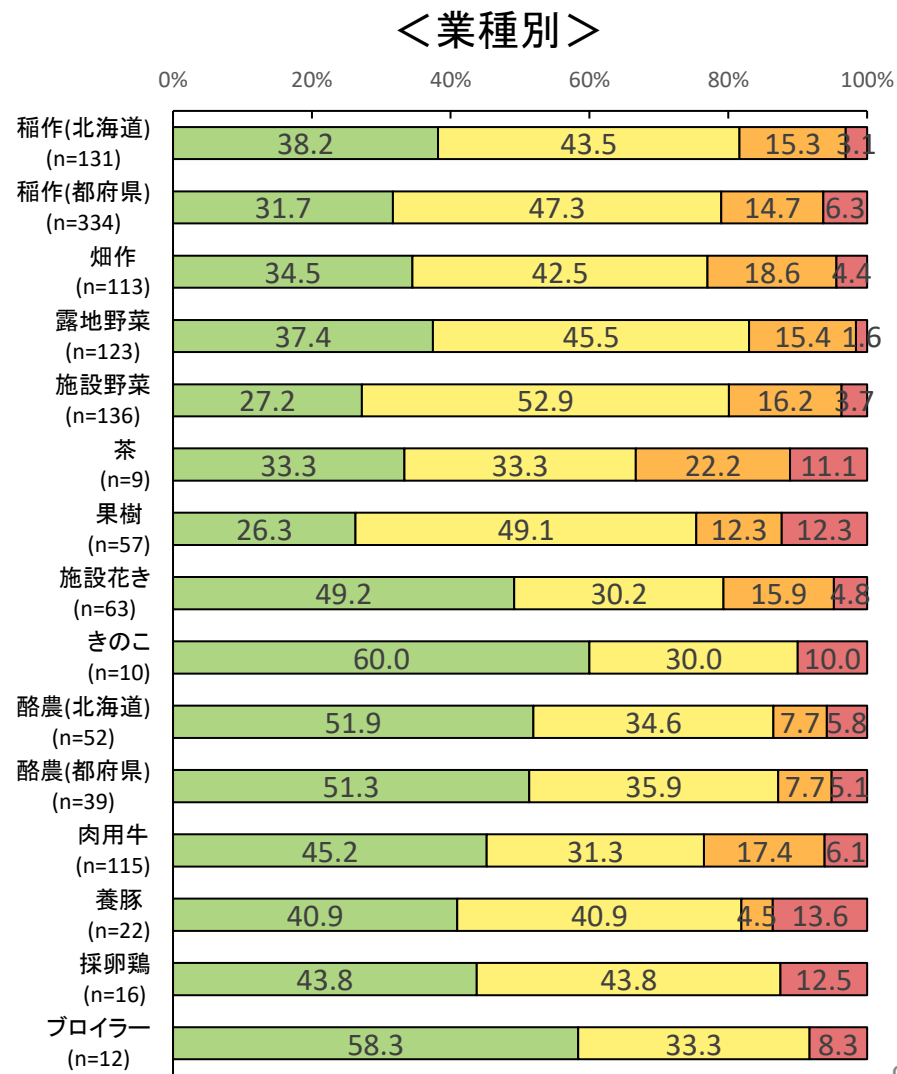
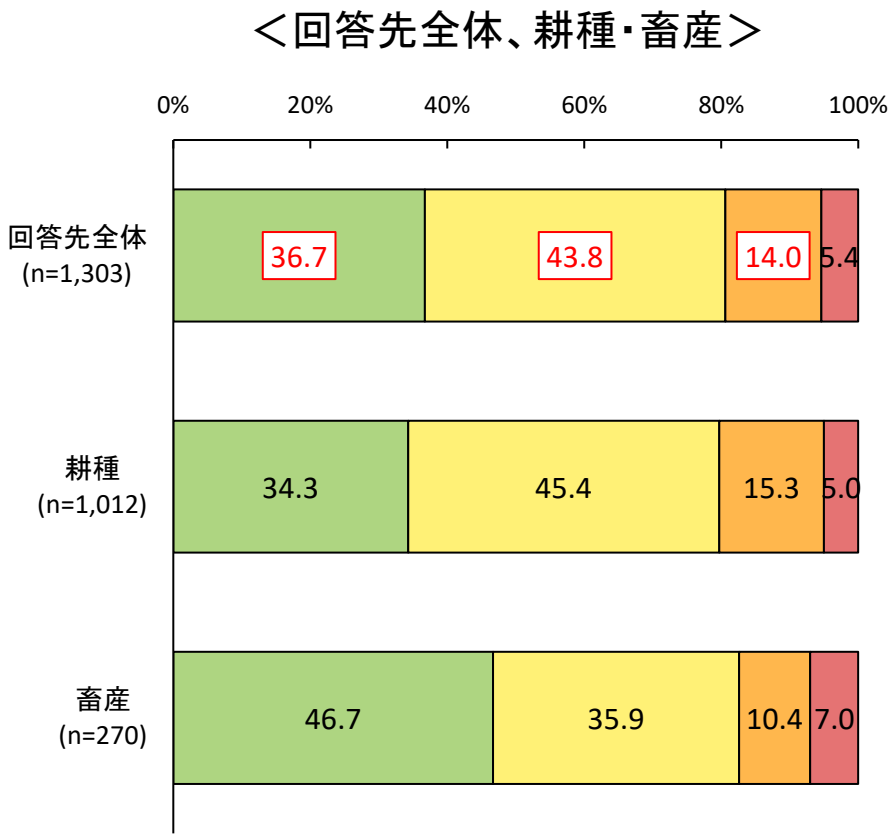
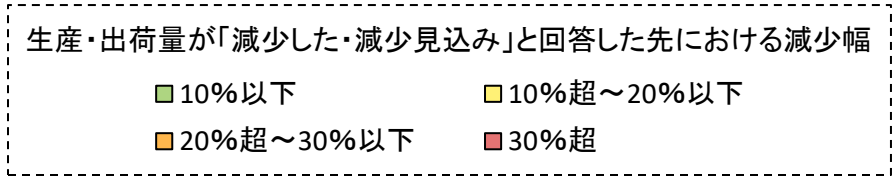
4.生産・出荷量への影響(回答先全体、耕種・畜産、業種別)

- ・生産・出荷量への影響について、回答先全体では、「影響はない」と回答した割合が64.7%と最も高く、次いで「今後(令和8年7月以降)減少する見込み」(18.7%)、「減少した(令和8年3月～6月の間)」(8.1%)となった。
- ・業種別にみると、「減少した・減少見込み」と回答した割合は、施設花き(48.8%)が最も高くなった。

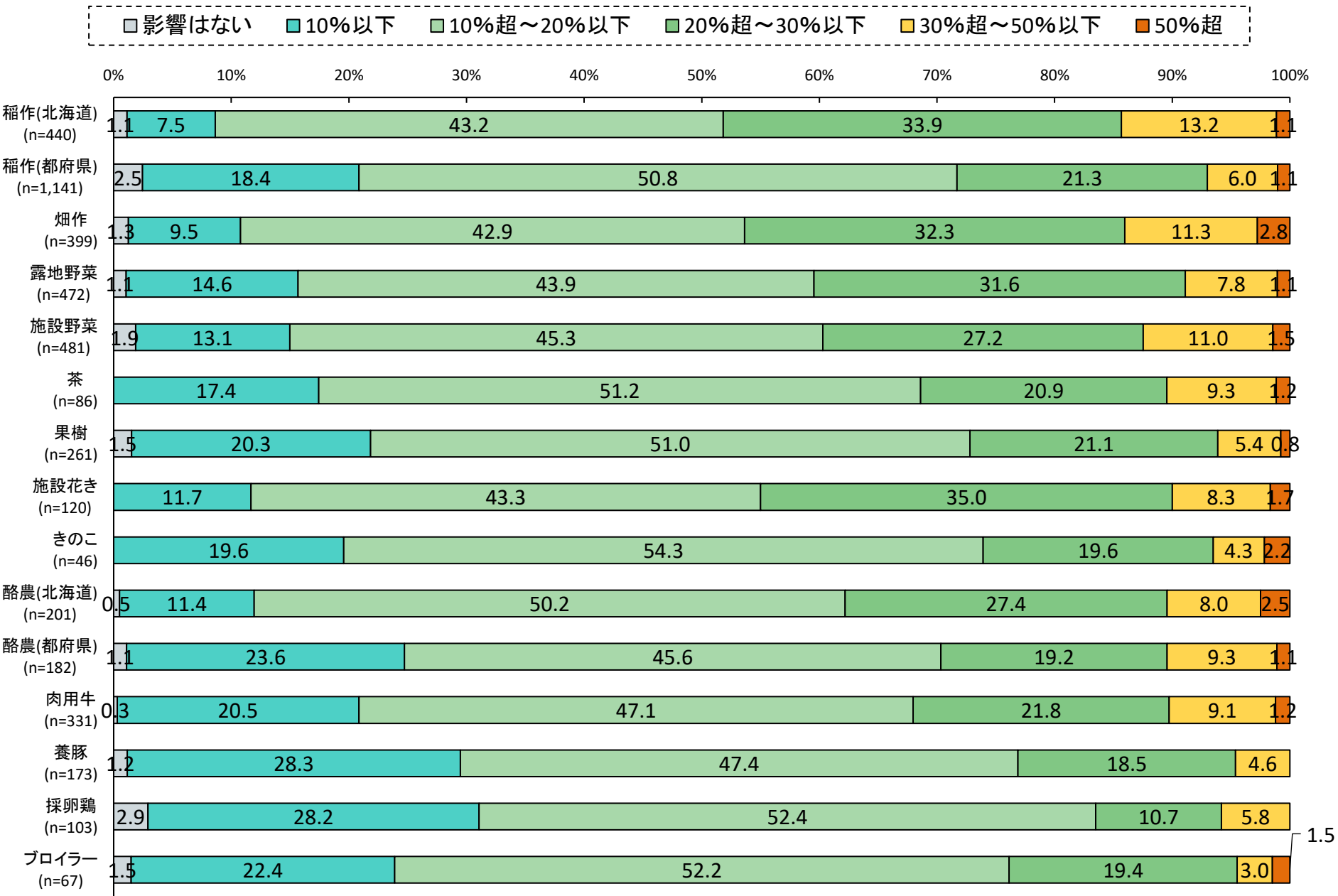


5. 生産・出荷量の減少幅(回答先全体、耕種・畜産、業種別)

・生産・出荷量が「減少した・減少見込み」と回答した先の令和8年2月以前と比べた減少幅は、「10%超～20%以下」と回答した割合が43.8%と最も高く、次いで「10%以下」(36.7%)、「20%超～30%以下」(14.0%)となった。



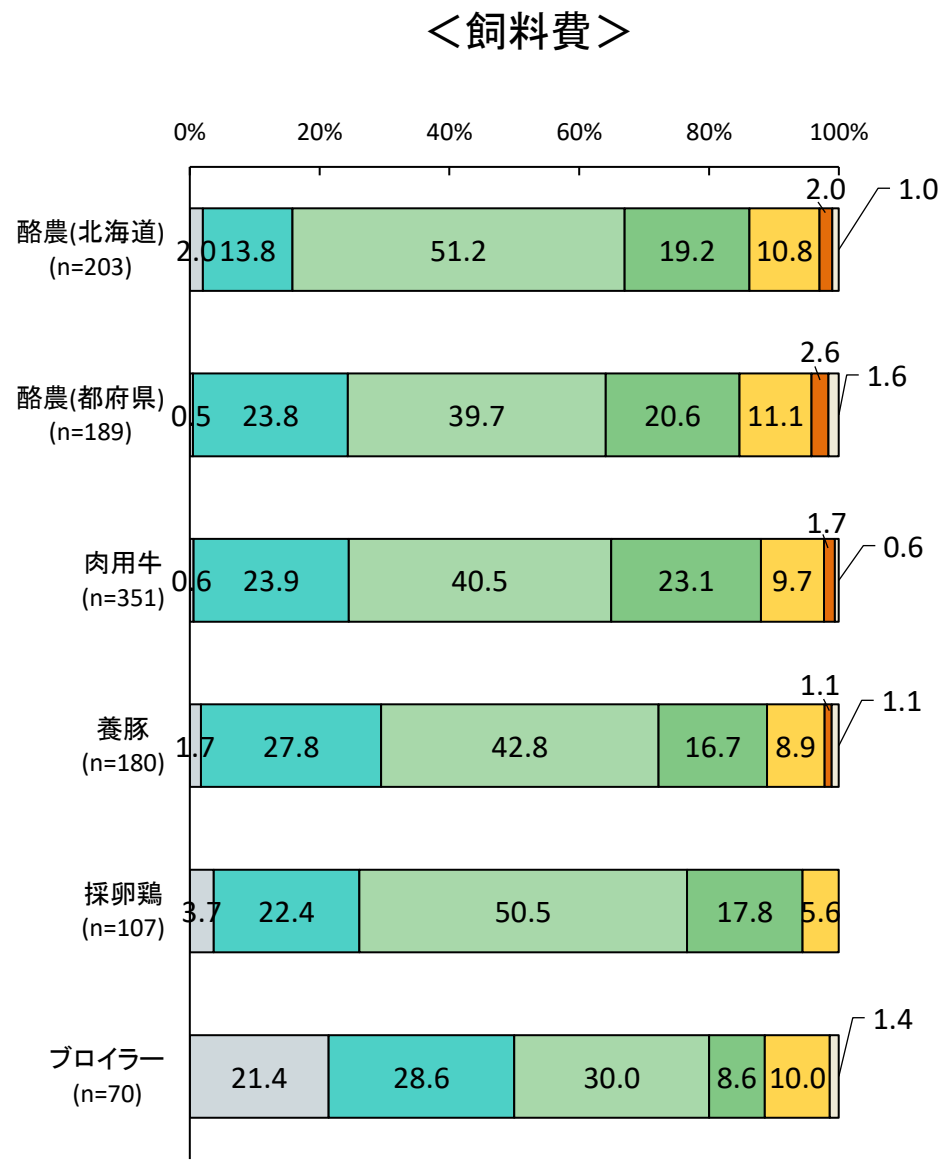
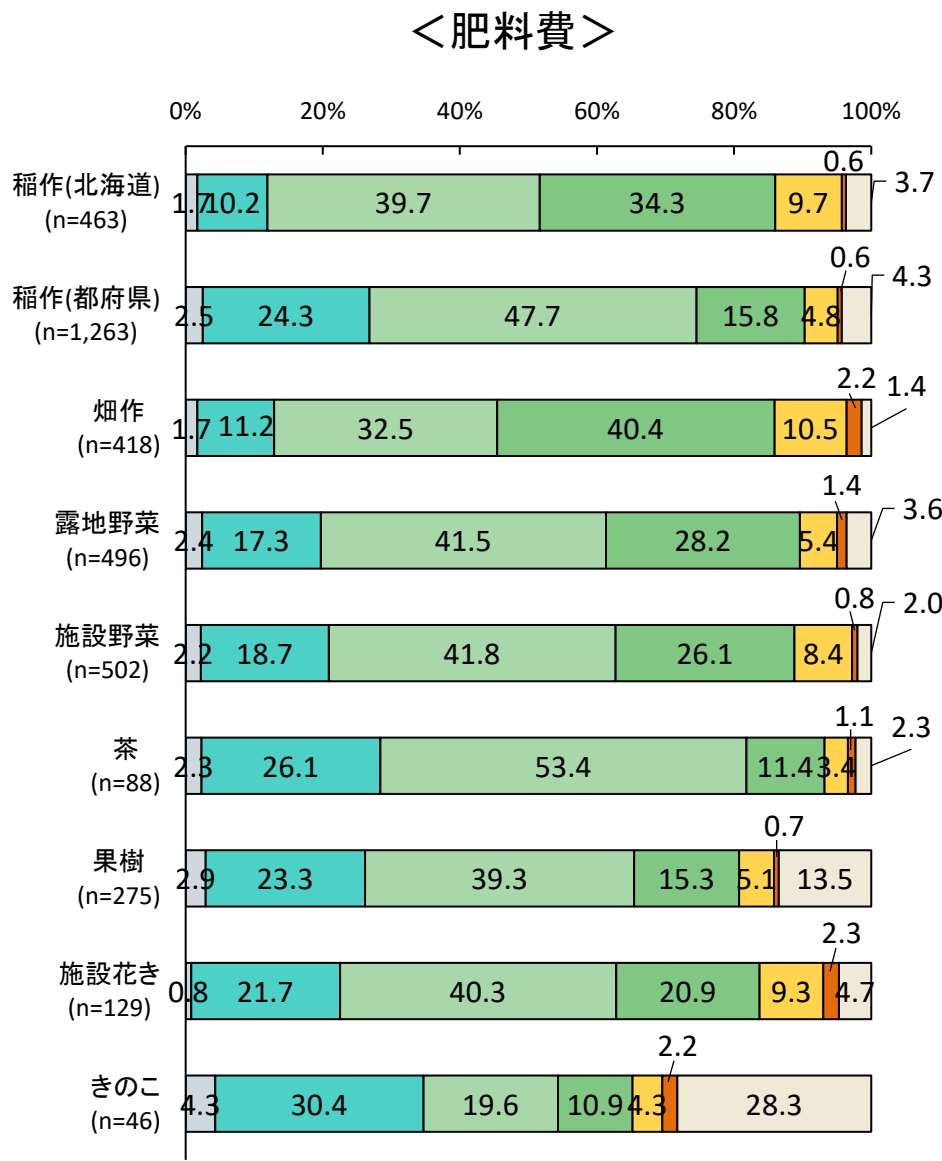
【参考】資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅（経営コスト全体、業種別）



※中東情勢の悪化に伴う影響を把握するため、「令和8年2月以前と比べた、7月1日時点のコストの増加幅」を調査

【参考】資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅（肥料費及び飼料費、業種別）

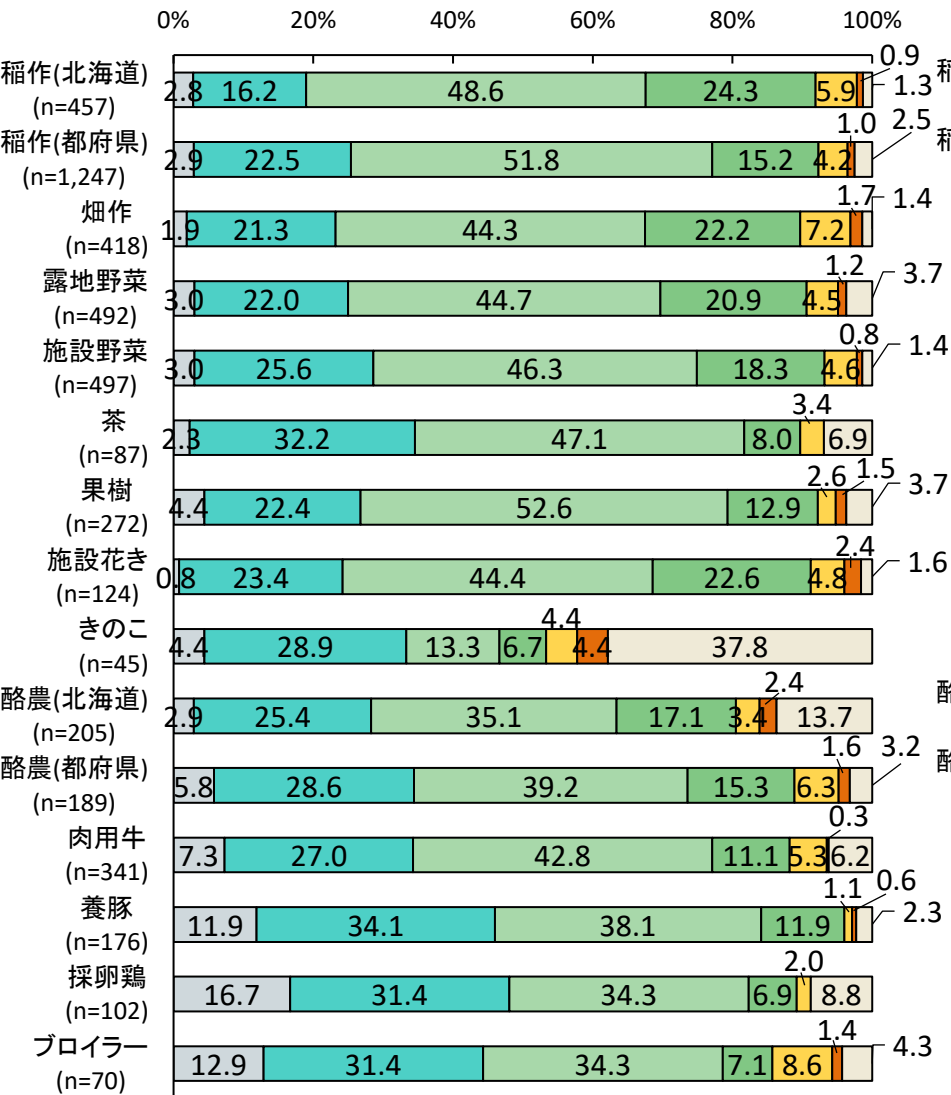
□ 影響はない ■ 10%以下 ■ 10%超～20%以下 ■ 20%超～30%以下 ■ 30%超～50%以下 ■ 50%超 □ 仕入れていない



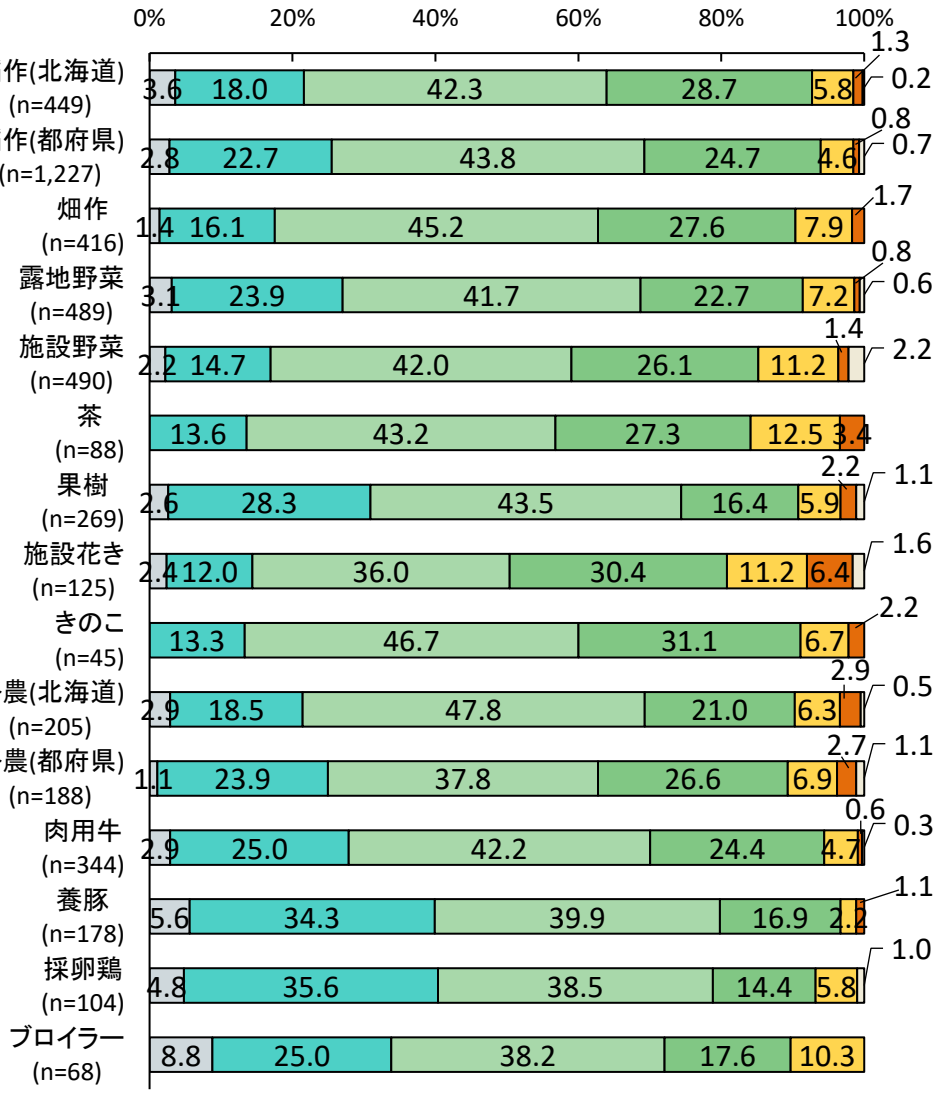
【参考】資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅(農薬・薬品費及び燃料動力費、業種別)

□ 影響はない □ 10%以下 □ 10%超～20%以下 □ 20%超～30%以下 □ 30%超～50%以下 □ 50%超 □ 仕入れていない

＜農薬・薬品費＞



＜燃料動力費＞

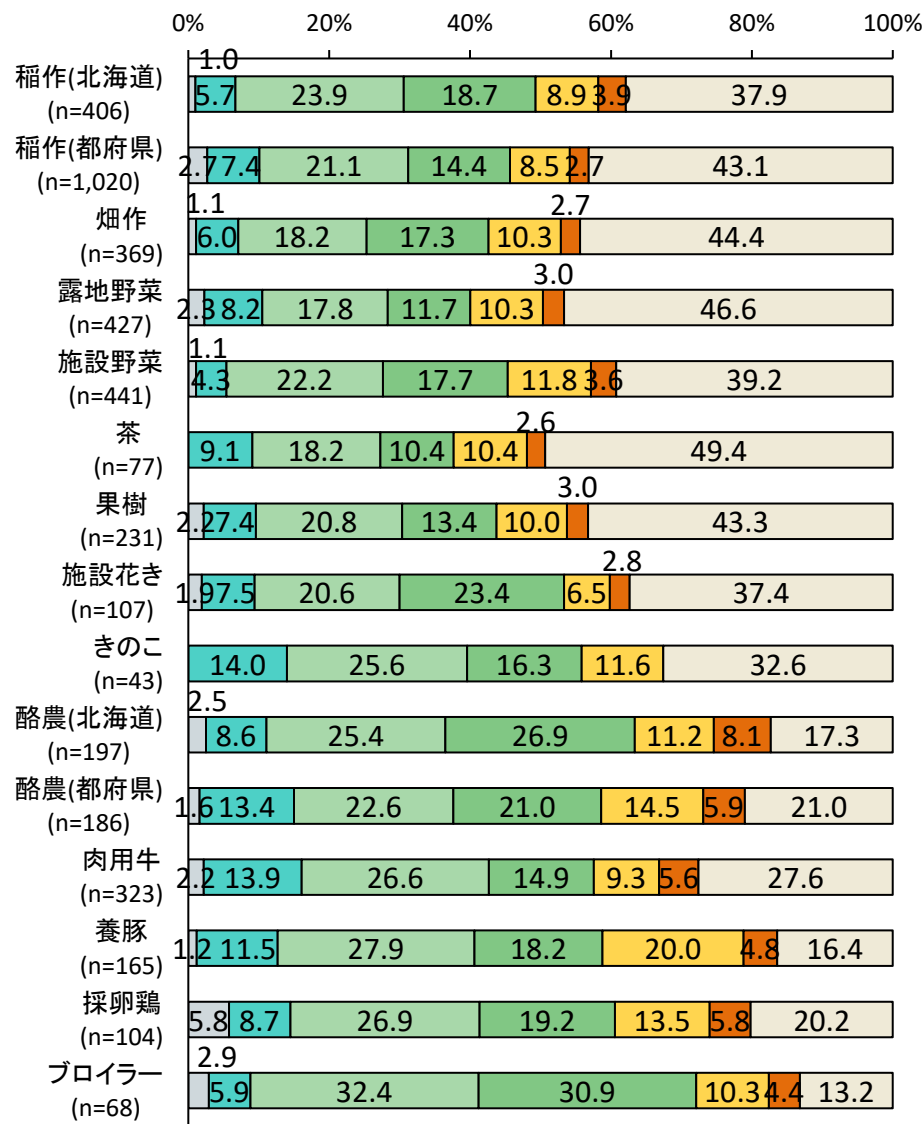


※中東情勢の悪化に伴う影響を把握するため、「令和8年2月以前と比べた、7月1日時点のコストの増加幅」を調査

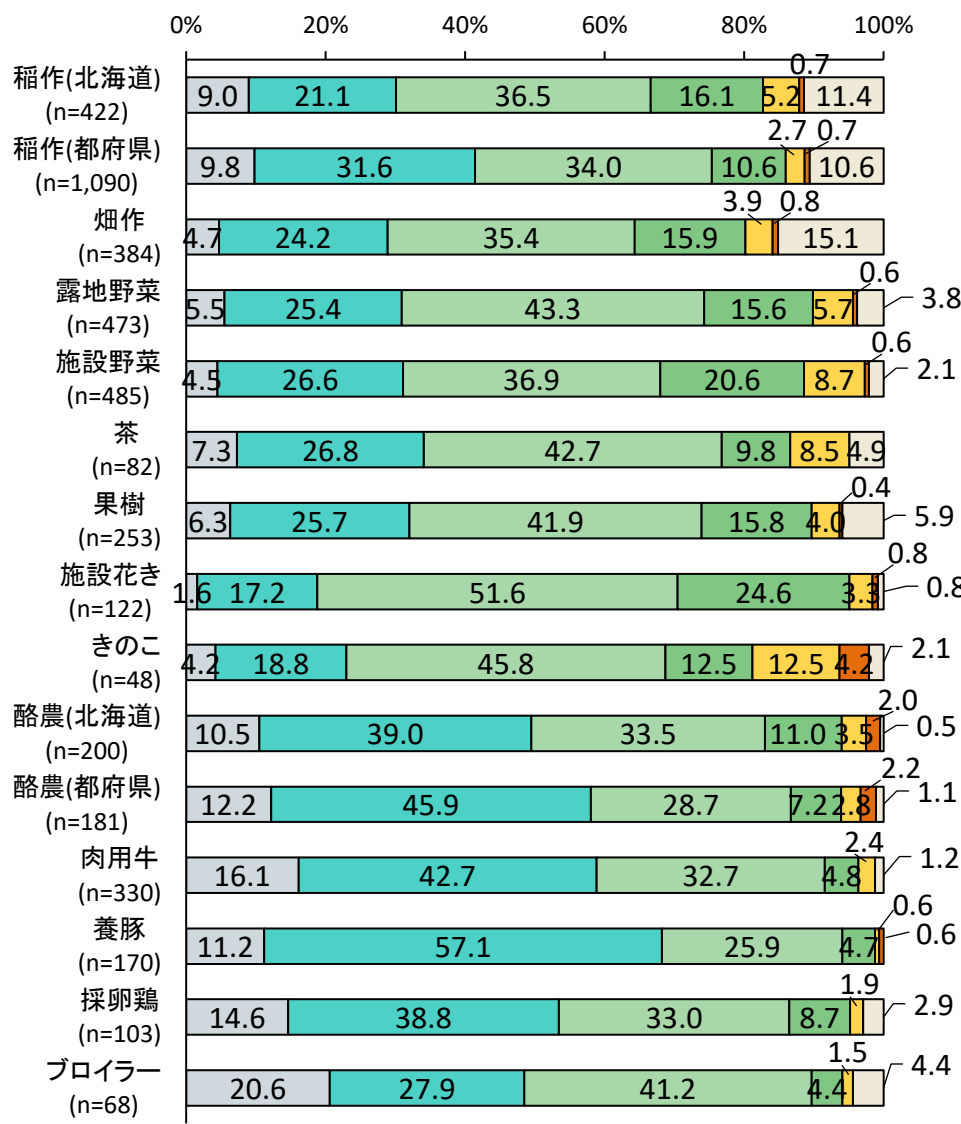
【参考】資材価格高騰等の影響による経営コストの増加幅（建築資材費及び出荷経費、業種別）

□ 影響はない ■ 10%以下 ■ 10%超～20%以下 ■ 20%超～30%以下 ■ 30%超～50%以下 ■ 50%超 □ 仕入れていない

＜建築資材費＞



＜出荷経費＞



※中東情勢の悪化に伴う影響を把握するため、「令和8年2月以前と比べた、7月1日時点のコストの増加幅」を調査

【参考】令和8年7月以降の生産資材等(出荷資材含む)の調達見込み(業種別)

